

「SORAデザイン」がつくった
熊本市東区在住 / Oさんの住まい

ひとり時間、ふたり時間 重ねる幸せを空が見守る家

抜けるような快晴の青に、花曇りのグレー
しんじんと降りしきる雪の清潔な白。
広い空を切り取るスケールの大きな窓が
移ろう四季を身近に感じさせてくれる。
やさしく過ぎ行く歳月は、最愛の家とともに。



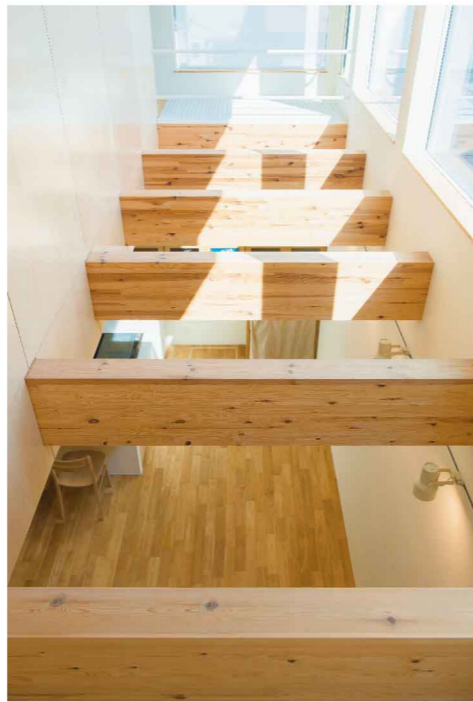
吹き抜けの上部には、光をたっぷり取り込むテラスと窓。明るさを確保するのみならず、ポカポカと心地よい温かさもキープ

「なんだか照れるね」とはにかみながらも、楽しげなおふたり。「キッチンカウンターのと奥と手前の距離感が絶妙なんです」と奥さま



みるみる魅了された 常識を超える家づくり

賃貸か、マイホームか。多くの夫婦が一度は考える問題だが、東区の静かな住宅街に新居を構えるOさん夫妻も例外ではなかった。「周囲の騒音以外、特に不満に感じていることもなくて。このまま賃貸に住み続けるのかなと思っていた」と話すご主人だが、ふらりと訪れた分譲マンションのギャラリィで開眼。「どうせなら戸建てがいいね」と急遽パートナー探しを開始。数多



吹き抜け部分には、構造的な補強と空間のアクセントを兼ねた梁を。抜け感を持たせつつ、力強さも感じさせる意匠が気に入っているそう

くの展示場やショールームに足を運ぶ日々。そのなかで、異彩を放っていたのが「SORAデザイン」だったという。「まず、押し付けがましい営業が皆無だったことに驚き(笑)そして、オープンハウスで見た家にやられました。こんなビルダーと緒だったら、家を建てるのも楽しそう! そう直感したふたりは、迷わず同社を選んだという。「偶然見つけたこの土地は、狭くて隣家との距離も近い。どんな家になるのか、ワクワクしながら打ち合わせに臨みました」と振り返る。

異素材を組み合わせたスクエアな外観も個性的。古い家が並ぶ住宅街でも調和がとれている





横一線に据え付けられた壁面収納。「普段使いの食器はここに。カットガラスが程よく目隠しの役割を果たしてくれます」



造作収納の特等席には、ご主人が趣味で集めたフィルムカメラ専用スペースも。「たまには手入れもしてやらない」と笑う



玄関を開けると目の前に現れる螺旋階段が、暮らしを立体的にしてくれる。足元には無垢材を使い、やわらかな風合いを出した



FRPグレーチングもお気に入り。まるでサンルームのように光のシャワーが降ってくる



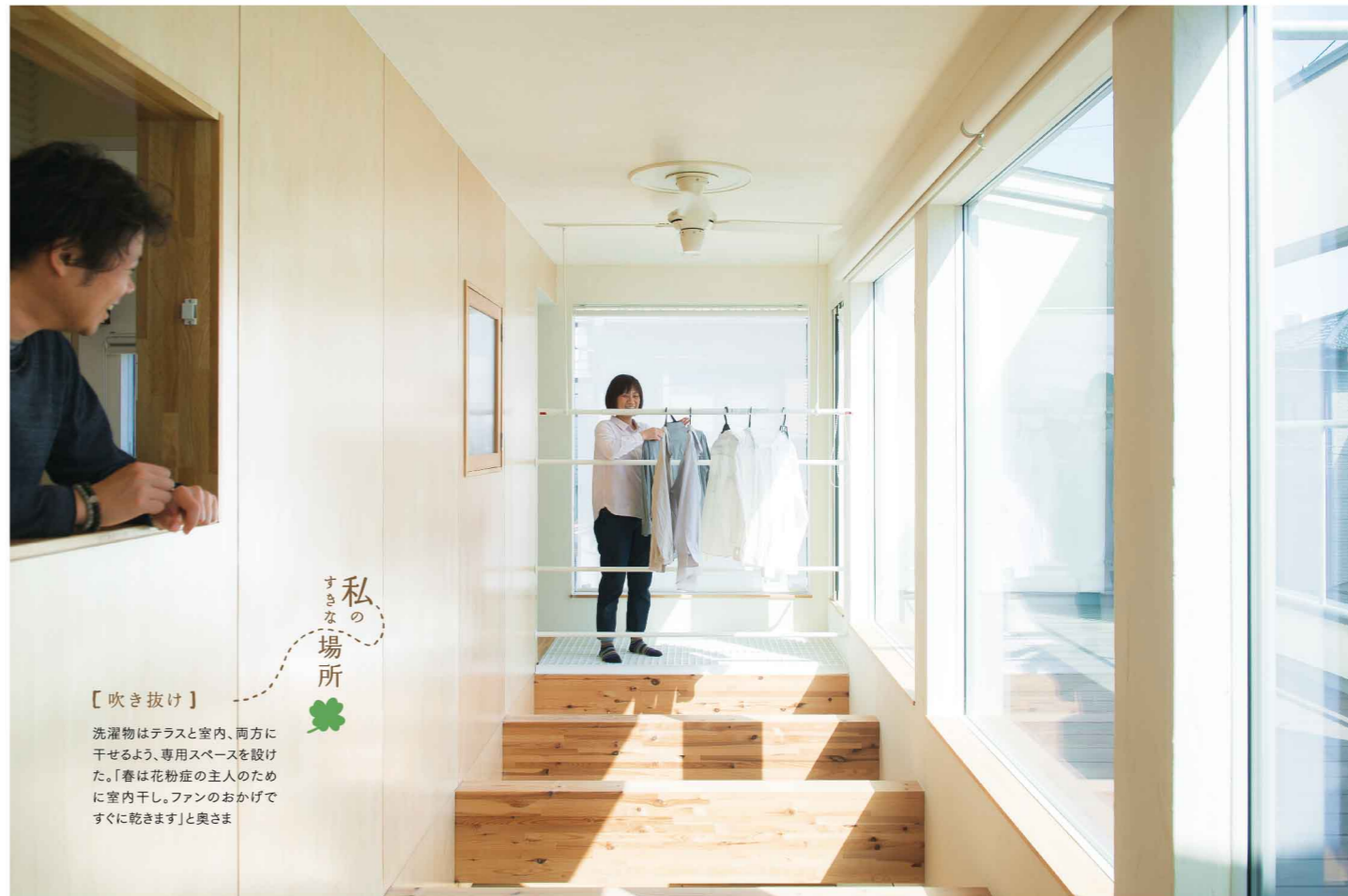
リビングの天井から吹き抜けの壁にはシナベニヤを使用。クリーンな壁天井が空間のアクセントに



テラスではお月見やひなたぼっこを。「ホットプレートを持ち込んで焼肉もしたね!」と思いきや、花が咲く

芯からリラックスできる空を眺めて過ごす時間

おふたりからの唯一のオーダーは「1階からも空を見上げて暮らせる間取りだった。『あとは基本的におまかせ。雑談を楽しんでいたら、いつの間にかプランが出来上がっていました』とご主人。提案された間取りは夫妻の心にすんなりと着地し、収納や玄関土間の面積など細かな部分の調整を除き、ほぼ一発OKだったとか。大胆な吹き抜けや螺旋階段、コの字型のキッチンなど、特徴的な仕様も「実際に暮らし始めてからは、どれも使い勝手がよくて大満足。何より、念願だった空を眺められるリビングが最高なんです。晴れの日はもちろん、お月見をしたり、寝っ転がって降り積もる雪を眺めたり、四季折々の楽しみがあります」と奥さま。「それに、一年を通じて想像以上に快適。冬も昼間は暖房いらず、夏も窓を開ければ涼しい。デザインに惹かれた部分



私の好きな場所

【吹き抜け】

洗濯物はテラスと室内、両方に干せるよう、専用スペースを設けた。「春は花粉症の主人のために室内干し。ファンのおかげですぐに乾きます」と奥さま



外からの視線は通りつつ、内側に伸びやかな空間を内包するテラス。大開口部から風を取り入れて



土間とリビングを隔てるのは、曇りガラス風の引戸。全開すれば、さらに開放感が増す

2階の中央には、大容量のクローゼット。シェードを下ろせばスッキリ

休日の外出先を伺うと「SORAデザインのオープンハウスだよ」と顔を見合わせおふたり。そう、既に家づくりを終えたOB同士のつながりを楽しめるのも、同社ならではの！「オープンハウスでは未だに新鮮な驚きに出会えますし、自宅のいいところも再発見できます。OBが集まって飲み会を開けば、互いの家の話で持ちきれないですよ」とご主人。家が建った後も、ビルダーとより深い関係性を築けること。家づくりに関する施主の満足度を、これほど雄弁に語るものはないだろう。「マイペースな夫婦ですが、一緒に過ごす時間も大切。この家で、のんびり年を重ねていきたい」。今日一番の笑顔が青空を見上げていた。

「家が建ったので、嬉しい誤算でした」と語るご主人の声も、自然と弾んでいる。
「デートもオープンハウス!? 家づくりの夢は終わらない」